

総務産建常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務調査として、閉会中の継続調査に付託された調査事件について、調査の経過及び結果を会議規則第 77 条の規定により報告する。

令和元年 6 月 19 日

上富良野町議会議長 西 村 昭 教 様

総務産建常任委員長 岡 本 康 裕

記

調査事件名

- 1 定住・移住について
- 2 観光振興について

調査の経過

本委員会は、閉会中の継続調査事件名を「定住・移住について」と「観光振興について」に決定し、平成 29 年 3 回、平成 30 年 3 回、平成 31 年 3 回、令和元年 2 回の計 11 回にわたり委員会を開催し、調査を行った。また、平成 30 年 1 月 29 日から 31 日の 3 日間、定住移住の調査事件の先進地調査として「島根県邑南町」、「島根県飯南町」で行政調査を実施した。その結果を次のとおり報告する。

1 定住・移住について

(1) 上富良野町の定住移住の現状と課題

本町の定住移住対策は、平成 18 年度までは移住相談窓口の設置や移住体験記を行政ホームページに掲載する程度であったが、平成 19 年度の「頑張る地方応援プログラム」応募により、同年度、庁内プロジェクト「上富良野町移住・定住プロジェクト」を発足し、具体的な対策について取り組みを始め、平成 22 年度には「定住移住プロジェクトチーム」を設置して、「上富良野町定住移住促進計画（平成 23 年 3 月）」を策定している。

また、平成 20 年度からは旧教職員住宅を有効活用し、「移住準備住宅」「地域コミュニティ住宅」として、移住者の体験移住などに取り組み、さらに平成 26 年度からは、移住を検討している方を対象とした「お試し暮らし住宅」の運用を開始している。

さらに、平成 23 年度は国の緊急雇用創出推進事業を活用し、かみふらの定住移住促進事業に取り組み、移住者実態調査・モニターツアー・移住案内用パンフレット作成・移住用ホームページのリニューアルを実施するとともに、町内の関係機関を構成メンバーとした「定住移住促進連絡協議会」を設置して、情報共有と連携を

図っている。

① 人口の推移

本町の人口は、昭和 30（1955）年の自衛隊駐屯により急増し、住民基本台帳では昭和 33（1958）年に 19,182 人がピークであった。以降、減少が続き、平成になってからの推移について、平成 27 年を基準として見てみると、過去 10 年間で 1,526 人減少、過去 20 年間で 2,055 人の減少、平成 2 年からの 25 年間で 2,439 人が減少している。また、第 5 次上富良野町総合計画の推計値と比較すると、平成 22 年で 807 人、平成 27 年で 982 人と、推計値を下回っている。

平成の国勢調査人口の推移

年	人口	調査年対比	附 記	第 5 次総計予測
平成 2 年	13,265 人	▲862 人		
平成 7 年	12,881 人	▲384 人		
平成 12 年	12,809 人	▲72 人		
平成 17 年	12,352 人	▲457 人		
平成 22 年	11,545 人	▲807 人		12,352 人 (差▲807 人)
平成 27 年	10,826 人	▲719 人	10 年間の対比 (H27-H17) ▲1,526 人 20 年間の対比 (H27-H7) ▲2,055 人	11,808 人 (差▲982 人)

過去 10 年の自然動態は、出生が減少傾向で、死亡は 120 人弱でほぼ横ばいで推移しており、死亡数が出生数を上回り、250 人が減少している。また、社会動態は、平成 23 年と平成 29 年を除き、転出数が転入数を上回り、1,081 人が転出超過である。この 10 年間では、自然動態で 1,331 人が減少している。

住民基本台帳による過去 10 年の自然動態と社会動態の推移

(人)

区 分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
自然	出生	128	104	96	101	96	96	78	84	71
	死亡	110	122	127	101	104	129	124	120	106
	増減	18	▲18	▲31	0	▲8	▲33	▲46	▲36	▲35
社会	転入	633	485	457	601	508	523	525	533	575
	転出	748	674	661	569	583	704	714	620	692
	増減	▲115	▲189	▲204	32	▲75	▲181	▲189	▲87	▲117
増減計	▲97	▲207	▲235	32	▲83	▲214	▲235	▲123	▲152	

年齢別人口の推移では、60 歳をボーダーラインに 59 歳以下が大きく減少、60 歳以上が増加している。過去 10 年では 59 歳以下が 2,070 人減少、60 歳以上が 508 人増加、過去 20 年では 59 歳以下が 3,353 人減少、60 歳以上が 1,262 人増加で、少子高齢化の進展が著しい。特に 29 歳以下の減少については、これからのまちづくりの担い手であり、未来のかみふらのを担う若者が少なくなっている状況であり、大きな課題であると認識する。

国勢調査の年齢別人口の推移

(歳：人)

	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	100-
H2	1,672	1,922	1,772	1,880	1,906	1,814	1,236	770	272	20	1
H7	1,419	1,638	1,846	1,686	1,895	1,666	1,497	852	337	45	0
H12	1,359	1,388	1,750	1,765	1,571	1,756	1,616	1,070	470	62	2
H17	1,186	1,161	1,674	1,616	1,448	1,782	1,565	1,277	550	89	4
H22	1,097	1,031	1,262	1,447	1,400	1,460	1,616	1,418	687	125	2
H27	917	966	936	1,306	1,394	1,278	1,646	1,359	851	133	4
27-7	▲502	▲672	▲910	▲380	▲501	▲388	149	507	514	88	4
27-17	▲269	▲195	▲738	▲310	▲54	▲504	81	82	301	44	0

② 目標人口

第6次上富良野町総合計画の人口目標値は、平成27(2015)年度に策定された「上富良野町人口ビジョン」に基づき、令和10(2028)年10,660人としている。

人口の予測値と目標値

(人)

	2005年	2010年	2013年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
第5次	12,352	12,173	11,954	11,808	11,307	—	—	—	—
第6次	予測値	—	—	11,124	10,536	9,918	9,295	8,685	8,086
	目標値	—	—	11,431	11,150	10,842	10,546	10,280	10,011

③ 移住相談と実績の状況

平成18年度からの各会計主要施策の成果報告書により、移住相談と移住実績を調査した。移住相談の件数は、平成26年度から東京・大阪・名古屋で開催されている「北海道暮らしフェア」に参加しており、その会場での相談件数を含めた数値となっている。

移住実績については、町で移住者全てを把握することは困難であり、移住相談や移住準備住宅・お試し暮らし住宅の利用者が本町に移住したことの把握数値であり、町担当を経由していない移住者の数値は調査されていない。

移住相談と移住実績の件数

区分	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	合計
移住相談	43	56	24	21	25	27	31	40	146	158	144	97	812
移住実績	世帯	2	10	4	3	8	14	9	5	10	3	8	77
	人	4	26	8	4	14	22	17	8	15	4	15	138

※ 移住相談件数は延べ件数、移住相談はH26から北海道暮らしフェア分を含む(各会計主要施策の成果報告書より)

④ 移住準備住宅・地域コミュニティ住宅の利用状況

町は、閉校などにより利用が少なくなった旧教員住宅を下記の目的として有効活用し、移住促進を図っている。

・ 移住準備住宅の目的

本町に移住する予定のある方に対して、町での生活基盤を形成する準備期間中の最大2年間、借用できるようにして、移住施策を推進することにより、人口の流入を促し、町の活性化を図ること。

- ・ 地域コミュニティ住宅の目的
閉校となっている学校の教員住宅を活用し、当該地域への人口流入を造成し、コミュニティを維持すること。
- ・ お試し暮らし住宅の目的
移住を希望している方を対象に、一定期間、町内での生活を体験できる住宅により移住促進を図ること。

移住準備住宅等の借用料等

区 分		借 用 料 等	
移住準備住宅	旭町 1号、2号	借用料	15,000円/月
	旭町 3号～6号		7,500円/月
	旭町 7号～10号		6,000円/月
コミュニティ維持住宅	東中 19号	借用料	15,200円/月
	東中 20号		14,000円/月
	東中 24号、25号		18,200円/月
お試し暮らし住宅	5～10月	利用料	2,000円/日
	11月～4月		2,500円/日

移住準備住宅等の利用実績 (戸、人)

			H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
移住準備住宅	旭町	戸数	6	6	10	10	18	18	10	10	10	10	10
		利用	9	10	10	9	3	1	5	5	4	2	2
お試し暮らし住宅 (町内一時住宅)	旭町	戸数	4	4	—	—	—	—	2	2	4	4	3
		延日数	—	—	—	—	—	—	0	204	385	498	475
		延人数	—	—	—	—	—	—	0	431	608	967	882
地域コミュニティ住宅	清富	戸数	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3
		利用	4	4	4	3	2	2	2	1	1	1	1
	江幌	戸数	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
		利用	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	東中	戸数	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	3
		利用	—	—	—	—	—	—	4	2	2	2	3

※利用の数値は、年度末現在の入居戸数（各会計主要施策の成果報告書より）

⑤ ホームページ、プロモーション

平成 23 年度に緊急雇用創出推進事業を活用した「かみふらの定住移住促進事業」により、移住用ホームページをリニューアル（H24. 2. 8. 公開開始）し、全国に本町の紹介や取り組みを発信している。

また、平成 24 年度から、いきいきふるさと推進事業助成金を活用して、北海道暮らしフェア（東京、大阪、名古屋）に定住移住促進連絡協議会の構成メンバーが参加・出展して、本町の特色紹介や移住を呼びかけている。

移住用ホームページの年間アクセス件数 (件)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
アクセス件数	4,970	7,470	6,993	9,771	16,820	14,368	10,643

⑥ 第2次上富良野町定住移住促進計画の取り組み

平成31年3月に策定された令和5年度（平成35年度）までの5年間の計画期間とする第2次上富良野町定住移住促進計画において、克服すべき課題として、「ライフステージに応じた総合的な支援・対策」「雇用環境の整備」「住環境の健全化」「交流人口の拡大」「『お試し暮らし住宅』事業の見直し」「人材を呼び込む、呼び戻す仕組みづくり」「移住後の生活をイメージできる体験機会の提供」の7項目の課題が明らかにされている。

さらにその課題を解決するための施策として「ライフステージに応じた総合的な支援・対策」「魅力ある産業・働く場所づくり」「良好な住環境の整備」「まちの魅力にふれる機会の創出」の4項目、さらには重点的に取り組む施策として「移住ニーズの把握と適切な情報発信」「ターゲットの明確化と移住を実現するシステムづくり」の2項目を実施するよう計画されているが、具体の事業については、ほぼ今までも実施してきた既存の事務事業である。

(2) 先進市町村行政調査

平成30年1月29日から31日に島根県邑南町と飯南町を視察して、特徴のある先進的な取り組みを調査した。ともにターゲットを若年層として、子育て支援の充実や就労への豊富な支援策などを用意し、移住に特化した専従職員の複数配置や地域おこし協力隊を活用し、移住者に対する一貫したフォローアップなど、県とNPOとも連携して、きめ細かく移住希望者と連絡調整を行い、人口減少の抑制対策を行っていた。（詳細は、平成30年3月6日の所管事務調査報告書のとおり）

(3) 総論（まとめ）

平成31年3月策定の第6次上富良野町総合計画の最重要課題として「町一体となった人口減少の対策」を掲げており、10年後の令和10（2028）年の人口目標値を10,660人としているが、国立社会保障・人口問題研究所では9,540人の推計値となっている。本町の人口は、平成31年4月末で10,654人であり、この人口を維持して目標値を達成するためには、第2次上富良野町定住移住促進計画に掲げる4本の主要施策や重点的に取り組む2本の施策、さらには令和5年度まで計画している具体的な各施策の着実な実行とその効果を期待する。

また、定住の促進、移住者の増加、人口減少対策のためにも、まちづくりの最上位計画である第6次総合計画の6つの分野目標達成のため30項目の施策を確実に実行することで、住んでよし移住してよしの上富良野町を築いていただきたい。

なお、本委員会の調査でも明らかになっているが、移住対策をさらに促進するためには、移住者ターゲットの明確な設定、定住移住促進計画に掲げている各施策を移住者に対して、もっと具体の事業の内容が分かりやすい・見やすいパンフレット等の作成などにより、他市町村に引けを取らない本町の定住移住の支援策を全国へ発信するなど、より具体的な戦略を持った取り組みにより、人口減少対策を図られたい。

さらには本町への移住希望者の対応として、移住専属担当者を配置して、よりきめ細かい移住者へのフォローアップなど、人と人との繋がりを重要視した、移住の取り組みを検討されたい。

2 観光振興について

(1) 本町の観光の現状と課題

本町の観光は、昭和 50 年代後半の国鉄キャンペーンにより、町花ラベンダーが使用されたこと、また、北海道観光で富良野・美瑛エリアが注目を浴びたことにより、観光入込客数が増加し、平成 13 年度には年間 100 万人を超える観光客が本町を訪れ、ラベンダーの最盛期には国道 237 号線の渋滞など、道内はもとより国内有数の観光地として広く認識されていた。

しかし、バブル崩壊などの経済情勢の悪化や旅行需要自体の停滞、観光地間の競争化、団体から個人旅行へのシフトなどの要因により、平成 21 年度までの観光入込客数は年間 80 万人台を維持してきたが、東日本大震災の影響などで平成 23 年度には 65 万人台にまで落ち込んでいる。

このような状況の中、観光産業の活性化や観光を中心とする地域の経済波及効果のため、行政・民間・観光団体が一体となって、観光振興に取り組んで観光入込客数の増加を目指すため、平成 24 年 12 月に本町で初めて観光振興計画（計画期間：平成 25 年度～平成 30 年度）を策定し、この計画を着実に実行することにより、平成 30 年度までの観光入込客数の目標を 90 万人に設定し、さまざまな取り組みを進めてきた。（別紙参照）

しかし、最新で公表されている本町の観光入込客数（平成 29 年度）は 63 万 1,400 人であり、計画策定時の平成 24 年度 74 万 1,300 人と比較して、10 万 9,900 人が減少しており、本委員会として次のとおり様々な角度から調査・分析を行うため、本委員会の調査項目を「体験型観光」「特産品（地元食材の活用）」「インバウンド対策」に絞り込んだ。

① 観光入込客数の推移

本町の対前年度比は、平成 25 年度から平成 28 年度まで減少しているが、平成 29 年度は増加している。富良野美瑛広域全体合計数は全て増加しているが、美瑛町、富良野市、南富良野町が 2 か年減少している。

平成 25 年度と平成 29 年度を比較すると、他市町村は増加しているが、本町だけが減少している状況が伺える。

本町の観光入込客数の内訳は、宿泊数は横ばいで推移しているが、日帰り数の減少が著しく、大型観光施設の撤退が大きく影響している状況が伺える。宿泊数のキャパシティは 800 人弱／日であり、仮に 365 日に乗じると年間 292,000 人となる。平成 29 年度の年間宿泊人数 76,100 人をこの数値で除すると年間 26.1%の稼働率であり、今後の宿泊数の増加の可能性が期待される。

また、イベントにおける入込数は、当日の天候や他市町村イベントとの競合、さらには四季彩まつりのように町民も入込数にカウントされている状況である。今後のイベントによる伸びしろを検討する場合は、町外からの参加を増加させるイベントの企画が期待される場所である。

富良野・美瑛広域との比較（前年度比較）

（人、％）

	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
上富良野町	717,100	—	693,700	96.7	632,700	91.2	610,100	96.4	631,400	103.5
美瑛町	1,494,100	—	1,791,000	119.9	1,698,300	94.8	1,659,500	97.7	1,679,500	101.2
中富良野町	855,600	—	922,200	107.8	1,042,400	113.0	1,068,400	102.5	1,110,900	104.0
富良野市	1,769,000	—	1,721,100	97.3	1,880,300	109.2	1,859,800	98.9	1,897,300	102.0
南富良野町	387,200	—	375,300	96.9	410,300	109.3	379,000	92.4	429,400	113.3
占冠村	1,054,200	—	1,171,700	111.1	1,328,800	113.4	1,487,300	119.2	1,756,700	118.1
合計	6,277,200	—	6,675,000	106.3	6,992,800	104.8	7,064,100	101.0	7,505,200	106.2

※前年度比：小数点2位以下四捨五入

富良野・美瑛広域との比較（H25 と H29 の比較）

	平成 25 年度		平成 29 年度	
上富良野町	717,100 人	—	631,400 人	88.0%
美瑛町	1,494,100 人	—	1,679,500 人	112.4%
中富良野町	855,600 人	—	1,110,900 人	129.8%
富良野市	1,769,000 人	—	1,897,300 人	107.3%
南富良野町	387,200 人	—	429,400 人	110.9%
占冠村	1,054,200 人	—	1,756,700 人	166.6%
合計	6,277,200 人	—	7,505,200 人	119.6%

※前年度比：小数点2位以下四捨五入

本町の宿泊数に占める外国人の推移

	宿泊数	うち外国人	割合
H25	76,600 人	3,840 人	5.0%
H26	73,700 人	4,268 人	5.8%
H27	75,600 人	8,485 人	11.2%
H28	76,700 人	10,247 人	13.4%
H29	76,100 人	9,999 人	13.1%

本町の観光入込の推移

（人）

年度	全体	うち 日帰り	うち 宿泊	うち トリックア ート美術館	うちフラワ ーランドか みふらの	うち 思い出のふ らの	うち 後藤純男美 術館	うち フラノーブ ルマツオ	うち ファーム富 田
25	717,100	640,500	76,600	94,623	107,328	32,531	33,255	64,500	14,791
26	693,700	620,000	73,700	88,369	102,010	31,811	25,881	51,313	18,068
27	632,700	557,100	75,600	71,566	89,361	38,853	24,133	6,368	18,250
28	610,100	533,400	76,700	64,560	88,955	40,383	27,199	29,650	14,995
29	631,400	555,300	76,100	61,325	89,418	36,490	31,777	36,819	20,144

※「フラノーブルマツオ」は、平成 28 年度以降は「ハーブガーデン富良野」である

本町のイベント入込の推移

（人）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
十勝岳山開き	74	90	96	95	95
四季彩まつり	20,000	30,000	30,000	15,000	12,000
紅葉まつり	3,485	3,136	1,916	2,773	2,813
北の大文字	1,200	1,000	1,000	1,200	1,200
雪まつり	1,200	1,200	2,000	2,500	2,500
十勝岳ヒルクライム		224	195	災害で中止	271
十勝岳トレイルラン			320	災害で中止	323
合計	25,959	35,650	35,527	21,568	19,202

観光案内所の入込

（人）

案内所	開設期間	合計	国内	国外
JR 上富良野駅	H30. 6. 17(日)～9. 30(日)	3,248	1,732	1,516
深山峠観光案内所	H30. 7. 1(土)～ 8. 6(日)	5,114	2,934	2,180
見晴台公園観光案内所	H30. 5. 3(木)～ 9. 30(日)	2,036	1,928	108

② 観光キャンペーンの推移

観光入込客数を増加させるには、観光客誘致のターゲットとして北海道では札幌圏、本州では首都圏での上富良野町のPRや観光キャンペーンが必要と思われるので、その実績を調査した。

札幌圏は、大通ビアガーデン「ふるさと応援ステージ」、札幌オータムフェスト、地下歩行空間、首都圏は北海道フェア in 代々木、ラベンダーティー関連イベント、サイクルイベント、近畿圏は友好都市である三重県津市関連イベント、海外は富良野美瑛観光圏でのプロモーションであり、概ね定番となっている。

形態は観光物産販売、かみふらのポークの食の販売、パンフレット配布などであり、不特定多数のターゲットに向けたPR活動となっている。近年はサイクリストをターゲットにした関連イベントにも参加している。

イベント参加により本町の知名度アップ向上や観光地のPRとともに、かみふらのポークや観光物産販売による収益事業にも取り組んでいる。

観光キャンペーンは、参加回数の多寡や費用対効果を測定することは非常に難しいと思われるが、観光入込客数やイベントの集客実績の推移からも即効性を期待することは難しい。

観光キャンペーンの推移

(回数)

	合計	うち札幌圏	うち首都圏	うち近畿圏	うちその他	うち海外
平成 25 年度	8	3	3	1	1	
平成 26 年度	8	3	2	2		1
平成 27 年度	12	5	3	4		
平成 28 年度	12	5	4	2		1
平成 29 年度	12	4	3	4		1

③ 十勝岳地区の観光入込客数の推移

本町の観光資源は、ラベンダーを中心とした花観光と秀峰十勝岳の景観や山岳アクティビティが非常に大きいと思われ、今後の観光客増加を期待できる十勝岳地区の調査を実施した。

十勝岳地区は、観光温泉旅館4軒が点在しており、通年の温泉客でにぎわっているほか、夏は登山者、冬はスノーアクティビティなどで四季を通じて多くの観光客で賑わっている。観光入込客数全体に占める割合は概ね20%台と安定した数値である。その他の地区で割合が多い深山峠地区や市街地区は、大型観光施設や宿泊施設、イベント入込数など、入込調査対象の事業者等が多いことや、観光トップシーズンの花観光などから、大きな割合となっていることが推測される。

また、十勝岳地区は町営バス十勝岳線を運行している公共交通があり、その実績も調査した。町民利用を除く数値で全体の4割を占めており、本州や札幌圏、外国人の観光客がこの公共交通を利用していることが推測される。しかし、この路線は、駅発2便の乗換時間や駅着2便の待ち時間など接続が悪いことや、本町を初めて訪れる観光客や外国人にとってバス停が分かりづらいなど、自家用車で十勝岳地区に行けない観光客に不便をきたしている現状がある。かみふらの十勝

岳観光協会がJR上富良野駅舎内に観光案内所を設置して案内しているが、開設期間が6月中旬から9月末までの8時30分から17時00分であり、年間を通じて十分な案内ができない状況である。

地区別の観光客入込客数 (人、%)

	全体	十勝岳地区		深山峠地区		東中地区		西部地区		市街地地区	
H25	717,000	131,782	18.3	241,526	33.7	15,361	2.1	111,040	15.5	190,836	26.6
H26	693,700	143,370	20.7	220,173	31.7	18,616	2.7	105,403	15.2	172,424	24.9
H27	632,700	138,827	21.9	226,059	35.7	18,830	3.0	93,238	14.7	128,443	20.3
H28	610,100	130,426	21.4	192,077	31.5	15,525	2.5	92,589	15.2	159,220	26.1
H29	631,400	133,667	21.2	199,562	31.6	20,774	3.3	92,947	14.7	167,360	26.5

※小数点2位以下四捨五入、端数整理のため割合は整合しない

町営バス十勝岳線の利用人数(町民利用を除く) (人、%)

	全体	大人		小人		イベント時	
		大人	小人	大人	小人	大人	小人
H25	8,767	2,921	33.3	93	1.1	153	4
H26	8,338	3,616	43.4	23	0.3	184	
H27	8,017	3,480	43.4	91	1.1	87	
H28	8,440	3,723	44.1	85	1.0	166	
H29	8,433	3,748	44.4	66	0.8	119	2

JR 富良野線と町営バス十勝岳線の接続

上り			下り		
行先	JR 到着時刻	駅前発車事項	駅前到着事項	JR 発車時刻	行先
旭川行	8時26分	8時52分	10時30分	12時00分	旭川行
富良野行	8時46分			10時38分	富良野行
旭川行	12時00分	12時49分	14時20分	16時02分	旭川行
富良野行	12時26分			14時36分	富良野行
旭川行	16時02分	16時31分	18時10分	18時21分	旭川行
富良野行	16時25分			18時41分	富良野行

※網掛けが不便と思われる運行時刻

④ 本町の特産品

町民が愛して誇る「かみふらのポーク」の「豚サガリ」や十勝岳山麓の肥沃な大地で育てられた農畜産物など、本町は観光客に誇れる地元食材が豊富であり、観光客が観光地に出向く選択肢として、ソコでしか食べられない、ソコでしか買えないことが、観光の醍醐味であると思われることから、それらを有効活用した特産品の調査を行った。

本町は、地元飲食店がかみふらのポークを食材としたメニューが多いが、加工品が少ない状況が伺えた。また、豚サガリを求めて訪れるなど日帰り観光客に紹介できる、日中に営業している飲食店が一目瞭然とわかる地図やパンフレットの工夫が必要であることが伺えた。

また、お土産品は、それぞれの販売店で購入しなければならず、一か所でいろいろな特産品を購入できる場がないことも課題と伺えた。

平成29年度からは、ふるさと納税制度を活用した「ふるさと応援(寄附)モニ

ター制度」により、1万円以上の寄附者を「上富良野ふるさと応援モニター」に任命し、本町の魅力が詰まった特産品をお届けしてアンケートをいただき、特産品のブラッシュアップを図っている。この制度により全国に上富良野町と特産品を発信、お届けしていることや各事業者が特産品の販売PRとして有効活用している。（参考：平成29年度商品売上1,759万5,210円）

また、町の支援策としては、平成25年4月から上富良野町新規開業・特産品開発支援事業補助金等交付要綱により、新規の開業事業者や既存事業者が新規に事業を展開する場合、さらには特産品開発を対象に事業費・雇用奨励金・家賃補助金・開発費補助金などを交付する制度を創出している。

地元産原料使用の特産品一覧

	品名等	製造者・販売所
農畜産物等	【ラベンダー製品】 加工品：石鹸、香り袋、ラベンダーウォーター等 原料供給：ポッカサッポロ「ラベンダーティー」、バスクリン入浴剤	かみふらの十勝岳観光協会
	【かみふらのポーク】 精肉、ハム等の加工品、焼肉	かみふらの工房 (かみふらの牧場) 各精肉店、各焼肉店
	【肉牛】 ふらの和牛、かみふらの和牛	谷口ファーム、明正
	【ホップ】 まるごとかみふらの、サッポロビール富良野ビンテージ、忽布古丹クラフトビール	サッポロビール(株) 忽布古丹醸造所 ホップ生産農家、酒小売店
6次化	ワイン、シードル、にんじんジュース、にんじんピクルス	多田農園
	ミニトマトジュース	四釜農園
	どぶろく「大地を醸せ」	ビーバーファーム北川 リカーショップかまだ
	はるゆたか小麦粉、手延べうどん、パスタ、ラーメン	興農社
開発	かみふらのポークの大和煮	ふらの香りの舎

平成29年度ふるさと応援寄附モニター商品の取扱い件数

商品名	件数	商品名	件数
秋メロン 秀 L玉 3個入りセット	87	赤肉メロン2玉	80
メロン L玉5個入りセット	88	赤肉メロン5玉	32
メロン M玉2個入りセット	1,934	かみふらのポーク地養豚サガリ	61
メロンM玉6個入りセット	16	かみふらのポーク地養豚コース	108
メロン特4 2個入りセット	527	かみふらの和牛 上カルビ焼肉セット	121
とうもろこし10本セット	77	ふらの和牛 サーロイン すき焼きしゃぶしゃぶ用	26
とうもろこし20本セット	56	ふらの和牛 サーロインステーキ	27
新じゃが玉ねぎ南瓜セット	55	プリマハムふらのギフトHF-53	18
新じゃがいも男爵 約10kg	53	プリマハムふらのギフトHF-43	22
新じゃがいも北アカリ 約10kg	124	プリマハムふらのギフトHF-SP	47
新じゃがいも北カムイ 約10kg	17	多田シードル&ボワレ	16
新じゃがいも・玉ねぎセット	171	多田シードル辛口	43
蔵出馬鈴薯ふらの黄爵 約10kg	142	多田ボワレ	2
富良野産スイートコーンセット	2	まるごとかみふらのプレミアムビール	40
富良野産玉ねぎ	318	どぶろく大地を醸せ	4
富良野産新じゃが玉ねぎ南瓜セット	58	ゆめぴりか5kg	4
富良野産南瓜	11		

新規開業等の補助実績

年度	件数	金額	うち特産品分	
平成 25 年度	3	4,142,480 円		
平成 26 年度	1	1,500,000 円		
平成 27 年度	6	5,855,302 円	2	1,696,139 円
平成 28 年度	5	4,476,755 円		
平成 29 年度	3	3,919,397 円		
合計	18	19,893,934 円	2	1,696,139 円

⑤ 体験型観光

観光に訪れた時に地域の人との関わりや、ソコでしかできない体験など、地域を知ることを楽しむ「体験型観光」のニーズが高まっており、特に外国人には顕著に表れている。地元の商店での買い物や観光施設とは別の一般的な食堂で地域の人が食べているものを食べてみたいなど、物見遊山的な観光から地域自体をターゲットした観光にシフトしており、本町の体験できる観光メニューの調査を行った。

本町で体験できる観光メニュー

	所要時間	料金	場所
スノードーム	約 60 分	800 円	深山峠アートパーク
押し花ガラスコースター	約 10～20 分	500 円	
エッチングフレーム	約 30～60 分	500 円	
アロマ&ハーブ体験	約 30 分	600～1,500 円	
ポプリ摘み (香り袋)		600 円	フラワーランドかみふらの
ハーブティー作り		1,000 円	ハーブガーデン富良野
陶芸体験		1,500～2,000 円	陶房 景和窯
かみふらの八景ガイド			パンフレット紹介のみ
歴史探索			パンフレット紹介のみ
サイクリング			パンフレット紹介のみ
フットパス			パンフレット紹介のみ
十勝岳登山			パンフレット紹介のみ

(参考文献: H30 観光協会パンフレット)

⑥ 訪日外国人の推移

本町に訪れる外国人観光客は年々微増しており、平成 29 年度には 1 割強にもなっている。国別の内訳では、中国・韓国・台湾・香港の東アジアが 7 割を占めており、東南アジアを含めるとアジアからの外国人観光客で 8 割を占めている。

また、ヨーロッパや北米、オーストラリアからの外国人は冬季に多く、十勝岳エリアのスノーアクティビティーを楽しみに訪れていることが伺える。

国別訪日外国人観光客の宿泊人数

	宿泊客数	訪日外国人宿泊数	割合	東アジア	東南アジア	ロシア ヨーロッパ	北米	オーストラリア	その他
H25	76,600 人	3,840 人	5.0%	2,850 人	347 人	109 人	161 人	162 人	211 人
H26	73,700 人	4,268 人	5.8%	3,177 人	240 人	192 人	239 人	136 人	284 人
H27	75,600 人	8,481 人	11.2%	6,922 人	738 人	217 人	291 人	123 人	190 人
H28	76,700 人	10,247 人	13.4%	6,658 人	2,400 人	190 人	439 人	232 人	328 人
H29	76,100 人	9,999 人	13.1%	6,992 人	1,447 人	450 人	628 人	129 人	353 人

- ※ 東アジア : 中国、韓国、台湾、香港
 東南アジア : シンガポール、マレーシア、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ベトナム
 ロシア・ヨーロッパ : ロシア、イギリス、フランス、ドイツ
 北米 : アメリカ、カナダ

⑦ 外国語メニュー表の作成

平成 27 年度、かみふらの十勝岳観光協会として、会員飲食店等からの要望に対し、インバウンド対策として外国語（英語表記）メニューを作成しており、その実態を調査した。

平成 27 年度 実施店舗一覧

十勝岳温泉 カミホロ荘、フロンティアフラヌイ温泉、湯元凌雲閣（十勝岳温泉(株)）、富良野ホップスホテル、日本画家 後藤純男美術館、喫茶 YUBA、(有)つた家、焼き肉「秀」、やま浪、富良野らーめん 花道、レストラン ウッディライフ、なないろニカラ（シットココ）、(有)山重、大阪苑、松月食堂、第一食堂、(有)みどり寿し、(株)ヤマイチ、花七曜、なちゆるるかふえ まめでたっしや、カラオケカフェ リュウ、とんとん亭

(2) 総論（まとめ）

本委員会は、「観光振興」をテーマに閉会中の継続調査として、全般的な調査を行い、「体験型観光」「特産品（地元食材の活用）」「インバウンド対策」の3項目に絞り込み、分析を行った。

観光産業は裾野が広く、観光施設はもとより宿泊施設、農業者、飲食店、小売店、地域交通など様々な分野の産業と関わりをもっている。多くの観光客が本町を訪れると街中の賑わいに加え、消費されるお金が地域で循環することから、大きな経済波及効果が生まれ、町の活性化や知名度アップ、ブランド化、さらには観光客と関わるガイドや店員など多くの町民が、かみふらのをPRや自慢できることで、地域愛の醸成や人材育成まで波及する産業分野である。観光振興を推進することにより、町の活性化やまちづくり、町の元気に繋がる判断する。

まず「体験型観光」について、本町は1日の最大宿泊数のキャパシティが800人弱と少なく、観光入込客数の増加を宿泊数の増加で伸ばすことよりも、日帰り観光客の増加で全体数の増加を図ること、さらには体験メニューの充実により日帰りから宿泊へのシフトを期待し、今後の展開の可能性を調査した。

秀峰十勝岳エリアは、夏山登山に加え、閑散期の冬季にバックカントリースキーはもとより、平地に雪がない時期に他の地域よりも積雪が早いため、クロスカントリーの合宿誘致や春山の一番遅いスキー大会の可能性を秘めている。国立公園であり規制もあるが、関係機関や十勝岳温泉郷の各温泉施設と十分に調整することにより、冬季閉鎖の道道十勝岳温泉美瑛線をクロスカントリーコースに有効活用することや三段山スキースロープの再評価を行うことで、スポーツ観光の推進が図られることを期待する。

また、日帰り観光客に対して、短時間で本町の観光ポイントを有機的に巡るモデルコースの設定とその魅力を十分に伝える有料ガイドの育成、観光客だけで巡るより地域の人がガイドとして同行し、ふれあうことにより、本町の魅力を十分に楽し

んでいただけることや、その申込みの受付窓口を設けることにより、さらなる観光客の増加が期待できる。なお、このモデルコース巡りの商品化の受付窓口は、事業として軌道に乗るまでは民間や個人ではなく、観光協会が主体的に取り組むことを期待する。

地域の体験型観光としては、雪はね体験や農業収穫体験、公園清掃・ペンキ塗り体験、清掃登山体験など、この地域の日常生活を観光資源として認識することにより、観光ツアーの創出が図れる可能性もある。

本町は十勝岳ジオパークの認定を目指し、これまでもジオガイド育成やジオ体験ツアーを実施しており、これの認定より体験型観光のメニュー化がさらに期待できる。

さらに、上富良野町まち・ひと・しごと創生総合戦略で「交流人口の拡大」を掲げており、移住希望者の居住体験や観光目的のシーズンステイなどによる短期滞在も観光入込客数の増加に繋がるものと思われる。

いずれにしても、こういった取り組みを先導、コーディネートする組織が必要であり、本町であれば観光協会がその業務を担うことが適当であり、町は必要な支援をするなど、町、観光協会、観光事業者がそれぞれの役割を明確にして分担し、戦略を持った観光振興に取り組まれない。

次に「特産品（地元食材の活用）」について、地元農畜産物の加工品及び農業者の6次産業化の製品などを調査したが、他市町村と比較して品目が少なく、本町を訪れる観光客や来町される様々なお客様へのお土産品として選択の幅が少ない実態であった。

本町には、かみふらのポークやホップ、雄大な十勝岳山麓の恵まれた気候風土の農畜産物など特産品の素材は多々あるが、それを加工する事業者や一括して販売する場所がないことも要因と考えられる。町として支援する制度「上富良野町新規開業・特産品開発支援事業補助」があるので、今後の事業者の展開に期待するものである。

地元産原材料使用の特産品とふるさと応援寄附モニター商品を調査したが、かみふらのポーク、まるごとかみふらのプレミアムビールなど、長年の努力でブランド化している特産品もあるが、イベント出店や観光施設、一般小売店での販売、さらにはふるさと応援モニター商品など、さまざま手法を駆使して、上富良野町の知名度アップや特産品のブランド化を図りたい。

また、地元食材を活用したメニューを提供する飲食店も多数あるが、観光パンフレットでは番号表記で分かりづらい点や日中と夜間の営業店舗が混在していることが課題と伺える。本町の現状を踏まえた時、簡易的な地図でもよいので、通過型の観光客などが昼食に利用できる、日中に開店している店舗名が入った昼間の飲食店マップや、宿泊や夕食を目的として観光客に対する夜間の飲食店マップなど、ターゲットを明確した地図やパンフレットの作成など、ここに行けば「かみふらの」の特産品を購入できる・「かみふらの」ならではのモノが食べられる場の創出が課題であり、これらの取り組みを検討されたい。

次に「インバウンド対策」について、本町を含め近隣市町村でも大きな課題とな

っている農地立ち入りやレンタカー、歩行などの交通ルールの違いなどの外国人マナー問題については、一自治体で取り組めるものではないため、北海道や富良野広域観光推進協議会など上部団体や広域観光関連組織と十分に連携して、啓蒙や改善に取り組まれない。

また、来客対応等については、観光協会を主として外国語のパンフレットや飲食メニューなどが作成されているが、さらに観光看板の外国語表記や外国語対応の人材育成、公共交通の接続などのほか、観光事業者や観光協会と十分に協議して、入込みの増加と対応を図られたい。

いずれにしても、観光入込客数を増加させるには、観光客が訪れる場所、観光地・観光施設の創出や知名度アップ・ブランド化が重要であり、十勝岳温泉郷のさらなる観光面での有効的な活用や日の出公園ラベンダー園・オートキャンプ場のブラッシュアップはもちろんのこと、既存の観光施設と連携した誘客プロモーションの実施、さらには上富良野町企業振興措置条例第2条に基づく観光事業施設のトップセールスなど、様々な手法を駆使して、本町の観光振興を図られたい。

【別紙】

上富良野町観光振興計画（平成25年度から平成30年度）の取り組み結果一覧

テーマ1 「町全体で観光客を快く受け入れおもてなすことができる意識の醸成」	
① 町民や上富良野ファンの参加による地域の観光資源発掘プロジェクト	◆2～3時間かみふらのに寄りませんかワーキング(H25)◆インバウンド・閑散期対策の意義を考える研修(H28)◆インバウンド観光客を地域で受け入れるために研修(H28)◆インバウンド外国人受け入れ研修(H28)
② 町民を対象とした地元再発見ツアー	◆観光ボランティアによる研修会・町内観光施設見学(H25～)◆観光閑散期対策フィールドワーク(H28)
③ 小中高校を対象とした「地域学（観光をテーマ）」講義等の開催	◆西小学校4年生総合学習「観光」ほか(H25～H28)
④ 観光人材育成プロジェクト	◆観光おもてなし向上塾(H25～H26)◆観光情報の効果的発信に向けたIT活用塾(H25)◆サイクリングツアーガイド/フットパスガイド研修(H27)◆上富良野ならではの「おもてなしスタイル」ワーキング(H26)◆効果的な外国人観光客受け入れのため地域おこし協力隊(H28)◆現役ガイドも知りたい！アウトドア講座(H28)
テーマ2 かみふらの物語の素材となる観光資源の発見（再評価）・磨き上げ・観光プログラムとしての提供	
① グリーンツーリズム、アウトドアなどニューツーリズムのプログラム化	◆軽トラ市による独自の取り組み(H25～)◆全道フットパスの集い in かみふらの/フォーラム(H25～)◆かみふらの十勝岳ヒルクライム大会(H25～)◆サイクリングガイド・フットパスガイド開始によるツアーの実施(H27)
② 戦略的短時間周遊型プログラムの構築	◆滞在型体験観光ガイドブック「楽旅かみふ」の作成(H25)◆かみふらの八景ラリー(H28)◆サイクリングマップ作成(H28)
③ 宿泊客拡大に向けたプログラム構築	◆地元食材を使用した飲食店等の調査(H25)◆上富良野産大麦・ホップを100%使用した「まるごとかみふらのプレミアムビール」発売開始(H28)
④ 上富良野ならではの特産品や料理の開発	◆見晴台公園野菜直売所(H26)◆豊味豚カレー富良野・美瑛カレー街道キャンペーン(H26～)◆富良野ラベンダーティー（ポッカサッポロ）新発売(H28)◆特産品開発支援事業補助金の制度化(H28)
⑤ イベントの魅力拡充	◆ゆるキャラ「らべとん」制作・イベント活用(H25～)◆チャリ旅グルメマップ作成(H26)◆かみふらの収穫祭開催(H27～)
⑥ オフシーズン（冬）の集客に向けたプログラム	◆十勝岳エリアスノーボードツアー開催(H26・H27)◆十勝岳エリア（三段山・翁遊歩道等）フィールドワーク(H27)◆「かまくら」を活かした観光プログラムの開発(H27～)◆スノーシューツアー・絶景（写真）ツアー(H27～)◆冬季間閉鎖道路を活用した白金カップ・クロスカントリースキー記録会(H29)

テーマ3 観光客に満足してもらうための観光関連施設・観光スポット等の整備	
①	①主要な観光関連施設・スポットのハード面の整備 ◆かみふらの八景・深山峠ラベンダーテラス設置 (H25) ◆日の出公園ラベンダー園・十勝岳ラベンダーロードのラベンダー再生 (H25～) ◆街なか賑わいテント設置 (H26) ◆日の出公園山頂までのアクセス道路の拡充・駐車場の整備・トイレ洋式化・案内看板 (H28) ◆かみふらの八景標柱更新 (H28)
②	②町内の観光施設・スポットまで効果的に誘導するサイン・案内板の設置 ◆サイクルサイン (ピクトグラム) 整備 (H27) ◆主要道路における「観光案内・観光施設説明看板」内容・設置場所調査 (H28)
テーマ4 観光情報の効果的などりまとめと発信	
①	①観光テーマに応じた町内のモデルルートの取りまとめと効果的な情報発信 ◆タウンガイドを作成し町内のお勧め施設・お店・ポイント等の案内資料作成 (H25～) ◆サイクリングマップ作成 (H28)
②	②観光協会のホームページに町内施設のマップコード番号を明記 ◆観光協会のHP・観光ガイドに観光スポットや会員施設のマップコードを掲載 (H25～) ◆観光協会のHPの外国語対応リニューアル (H28)
③	③ツイッターやフェイスブックを含めたインターネット活用による情報受発信 ◆ツイッターやブログでの情報発信の強化 (H25～) ◆十勝岳登山道・吹上温泉グーグルトレッカー撮影及びストリートビューによる情報発信 (H26)
④	④観光案内所の整備 ◆J R 上富良野駅観光案内所、見晴台公園、観光案内所で Wi-Fi スポットの整備 (H25) ◆観光・防災 Wi-Fi 整備 (日の出公園展望台ほか 13 施設) (H27) ◆かみふらのライブカメラ配信 (ジェットコースターの路、千望峠、日の出公園展望台) (H27) ◆YOUTUBE チャンネルの開設 (H27) ◆観光・防災 Wi-Fi 整備 (十勝岳・吹上温泉 5 施設) (H29)